

地域振興推進費事業計画・自己評価書（実績）

提出区分		実績	整理番号	19	課題区分	A
横断的な課題		その他				
地域重点政策		ポストコロナ時代に選ばれる「誰もが自分らしく健康に暮らせる長野地域」をつくる				
実施機関		北信教育事務所			担当課	所属
事業名		スポーツによるコミュニティ活性化事業			電話	026-234-9552
					E-mail	koshida-shinii@pref.nagano.lg.jp
事業概要	目的 (目指す姿)	・年齢や性別、障がいの有無に関わらず、誰もが一緒に楽しむことができるスポーツを、多様な子どもたちが利用している教育支援センター、フリースクール、放課後児童クラブ、放課後子ども教室関係者などを対象に広めるための研修を行う。 ・楽しむことを目的としたニュースポーツの普及や中学校部活動の地域展開など、スポーツへの親しみ方が多様化していることを受け、新たなニーズに対応したスポーツ環境をつくる。				
	現状と課題	・長野地域には放課後児童クラブが118か所あり、保護者の就労等により放課後留守になる子どもたちが平日の放課後や土曜日に利用している。また、放課後子ども教室を設置し、スポーツ・文化活動などを体験する機会を提供しているところもある。これらの場所においては、年齢や性別などの違いに関わらず、一緒に楽しむことのできる活動の指導者の養成が必要である。 ・長野地域には令和6年4月時点で18の教育支援センター(中間教室)や、フリースクールが設置され、学校へ行きにくくなったり、行けない状態が続いたりしている児童・生徒が利用している。これらの子どもたちが再び学校に行けるようになり、社会に出ていくためには、他者と関わりながら社会とのつながりを作っていくことが必要である。長野地域においても不登校児童・生徒の人数は年々増加しており、今後、教育支援センターやフリースクールの施設数や職員が必要になることが見込まれ、年齢や性別を超えて一緒に楽しむことのできるスポーツ活動を提供できる指導者の養成が更に必要である。				
	内容 (変更後の内容)	「スポーツを通した子どもの居場所づくり～誰もが一緒に楽しめるスポーツ種目の普及～」をテーマに、理論と実践の研修を行った。 (1)開催日 令和7年6月14日(土) (2)会場 長野県障がい者福祉センター サンアップル (3)参加人数 13人 【実技研修内容】 ①動き・あそび・ムーブメントの理解と実践～障害の有無に関わらず楽しめるスポーツ～(ビーンズバッグ、ムーブメントスカーフ等) ②誰もが一緒に楽しめるスポーツ種目(ボッチャ、モルック、スマイルボーリング、ディスゲッター、囲碁ボール等)				
	事業期間	令和7年6月 ～ 令和7年6月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等		実施内容		計画(実績)額	備考
	子どもの居場所におけるスポーツ活動の普及・拡大		スポーツ活動指導者講習会の実施		122,150	講師報償費(@3,200×4時間*2人) 講師旅費(@30×6km) ビーンズバッグセット(@33,000) ムーブメントスカーフ(@22,880) モルックセット(@39,490) スポーツ団体保険(@1,000)
	合 計				122,150	
指標及び達成状況	成果指標			目標値	成果	達成状況
	研修会における満足度			90%	100%	○ 達成
	研修会参加者数			30人以上	13人	● 一部達成
						○ 未達成
事業実績・成果	【成果】参加者の中には、幼稚園・小学校・特別支援学級担当、地域スポーツクラブ関係者等、様々な分野で活躍される方の参加があった。事後のアンケートでは「よい・とてもよい」の評価が100%であり、満足感のある研修であったことが伺える。また、研修会で扱った道具に関心をもった参加者から、後日道具を借りたいという連絡があった。実際、2週間程度の期間貸出を行った。 【反省点】今回の参加人数は13人で、目標には届かなかった。参加者数が目標の半分以下となった主な要因として、周知の遅れが挙げられる。開催通知は申込締切日の約1か月前に送付したが、結果として、開催日の数日前に参加希望者の手元に届くケースもあった。この点を反省し、今後は参加者の増加を図るために、従来よりも早めに周知を行うとともに、申込締切が近づいた段階で再度周知を実施するなど、情報発信のタイミングと方法を工夫していきたいと考えている。					
	今後の方向性	・多様な子ども支援の場におけるスポーツの活用を学ぶ研修の実施。 ・多くの方に研修に参加していただけるよう、教育関係者が集まる場などを活用し、効果的な周知に努めていく。				